

平成24年度

# 農地白書

「見える化」を実現！  
見つける・見抜く・見きわめる

鳥取県大山町



編集・発行 大山町農業委員会

表紙写真 田園風景と大山北壁

大山の恵みに育まれたこの豊かな農村風景は、農を愛する人々の手によりこれからも次代に引き継がれて行く。（大山町坊領地内）

## 農地白書の発刊に当たって

いま、わが国の農業は、高齢化や担い手不足が急速に進行し、全国各地で農地の荒廃が進んでいます。

本町では、特産野菜の振興や梨の改植、耕畜連携や畑地灌漑施設の整備などが進められ、若者の新規就農など明るい兆しも見えますが、農業情勢には依然として厳しいものがあり、農地の遊休化が急激に進行することが懸念されています。

このような情勢の中、本町農業の特色や問題点を把握・分析し、将来展望や今後の農業委員会活動の展開に資するため、この度「農地白書大山町版」を発刊する運びとなりました。本書が、大山町農業の更なる発展の一助になれば幸いです。

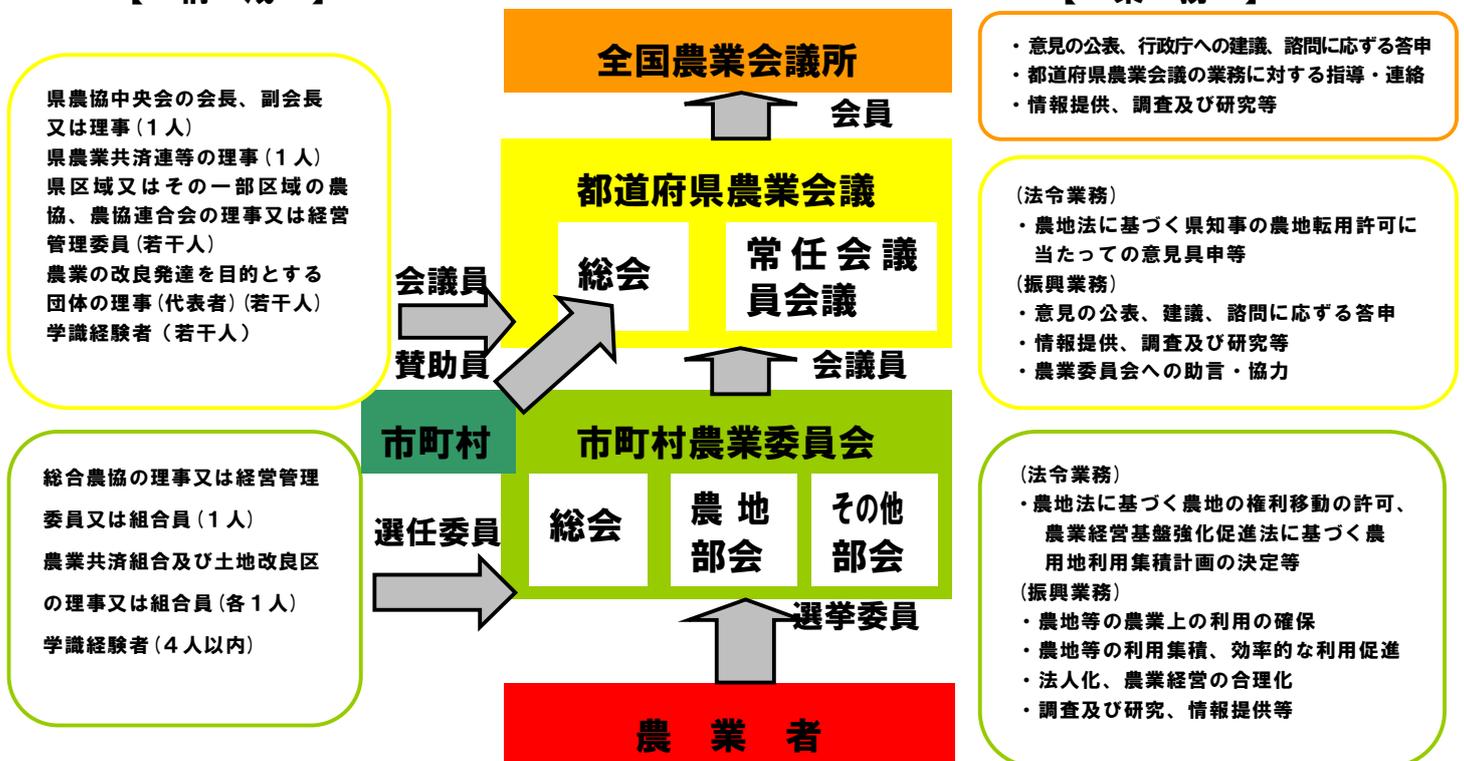
平成25年 3月

大山町農業委員会  
会長 船田 愛治

### 農業委員会系統組織の体系

【 構成 】

【 業務 】



### 市町村農業委員会の概要 (赤字は農地白書作成の根拠)

<b>根拠法</b>	農業委員会等に関する法律 (昭和26年制定)	<b>役割(所掌業務)</b>	①農地法等規定に基づく許認可に係る事務処理 ◆農地法及びその他の法令によりその権限に属された農地等の利用関係の調整に関する事項 ◆農業経営基盤強化促進法等 ②地域農業振興を図る促進業務(農業振興業務) ◆農地等の確保、利用集積等の効率的な利用促進に関する事項 ◆法人化その他農業経営の合理化に関する事項 ◆生産・経営・生活に関する調査研究と情報提供 ③農業・農業者に関する意見の公表、建議及び答申 ◆農業・農民に関する事項について意見の公表、建議及び諮問に応じて答申
<b>組織</b>	市町村に設置されている行政機関(選挙・選任委員で構成する合議体の行政委員会)		
<b>構成</b>	農業委員数29人(平成25年3月現在) (うち選挙委員24人、選任委員5人)		

# 目

# 次

農地白書の発刊に当たって（表紙の内面）  
農業委員会系統組織の体系  
市町村農業委員会・農業会議の概要

## 第1部【基本編】農地の基本的価値 1

- ◆①「食料供給」機能
  - 図1 農業産出額の推移
- ◆②「就業創出（地域活力）」機能
  - 図2 農業就業人口の推移と割合
- ◆③「環境保全」機能
  - 図3 農業の多面的機能の貨幣評価

## 第2部【農地編】農地基盤・利用の姿 2

- ◆①遊休農地の実態と発生要因
  - 図4 遊休農地の区分別面積と割合の推移
  - 図5 農家類型別遊休農地面積の推移
  - 図6 遊休農地の要因分析
- ◆②農地の立地条件 3
  - 図7 農業地域類型別の面積割合
  - 図8 農地整備の状況
  - 図9 農地筆数及び1筆平均面積
- ◆③農地面積の推移と利用整備計画等の状況 4
  - 図10 農地面積の推移
  - 図11 農業振興地域内農用地区域の設定状況
  - 図12 中山間直接支払い対象面積と協定数
- ◆④農地の利用状況 5
  - 図13 営農類型別農地利用面積と農地利用率の推移
- ◆⑤農地の貸借状況 5
  - 図14 農地貸借の推移（累計）
  - 図15 農地賃借料の状況
  - 図16 耕作放棄地再生事業の実施状況
  - 図17 再生事業後の利用状況（H21～H23）
- ◆⑥農地転用の状況 7
  - 図18-1 農地転用面積の推移
  - 図18-2 農地転用面積の内訳
  - 図19 水張り水田（保全）の状況

## 第3部【労働編】農業就労（人）の姿 8

- ◆①農業就業者の状況
  - 図20 類型別農家の推移
  - 図21 基幹的農業従事者数の推移
  - 図22 農業者の男女別年齢別構成割合
- ◆②就農の状況 9
  - 図23 新規就農者の推移
  - 図24 認定農業者の推移
  - 図25 農業法人等の推移

## 第4部【組織編】 関係機関・団体の役割分担 10

- ◆①農業委員会の状況
  - 図26 農業委員数の推移
  - 図27 女性農業委員数と割合の推移
  - 図28 事務局職員数の推移
- ◆②関係機関等との連携 11
  - 図29 平成24年度農地パトロールの農業委員等実施人数

## 第5部【特集編】 12

### 農業委員会系統組織活動の実績

- 1 市町村農業委員会の主な建議事項
- 2 プロジェクト活動の概要
- 3 農政活動トピックス

〈付〉

- 用語解説 14
- 農業委員名簿（裏表紙の内面）
- 大山町の風土（裏表紙）
- 大山町農業委員アンケート結果（各頁下段）

# 第1部 基本編

## 農地の基本的価値

～「食料供給・就業創出・環境保全（3機能）」の発揮～

### ①「食料供給」機能

### ②「就業創出」機能

### ③「環境保全」機能

図1 農業産出額の推移

～産出額の半分は畜産部門～

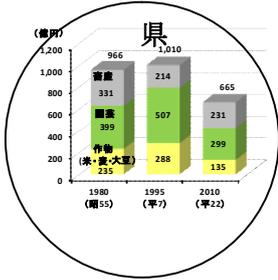


図2 農業就業人口の推移と割合

～就業者は半世紀で1/3に減少～

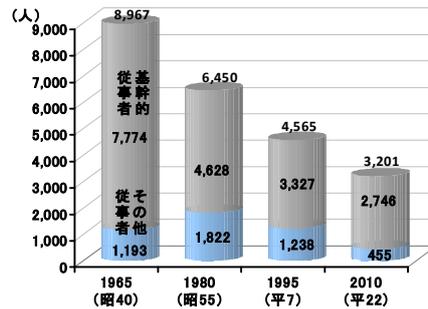
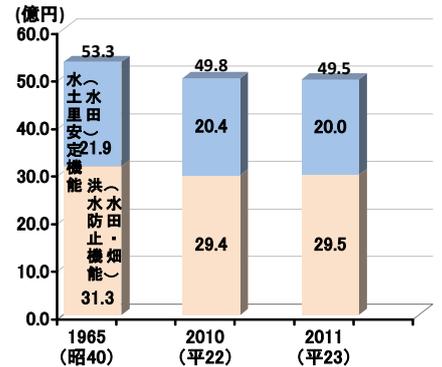
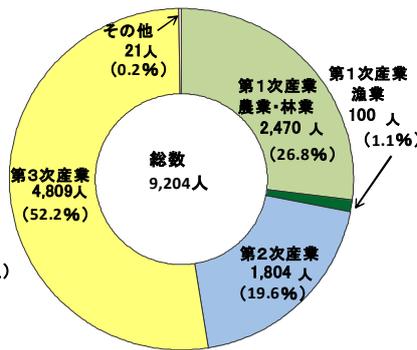
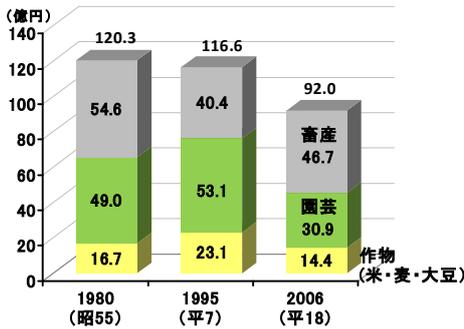
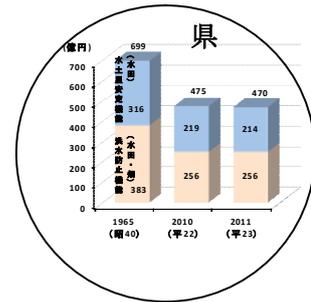


図3 多面的機能の貨幣評価

～評価額は50億円で横ばい～



資料：農林水産省「生産農業所得統計」

資料：農林水産省「農林業センサス」

資料：日本学術会議、(株)三菱総合研究所「農業の多面的機能の貨幣価値」(平成13年)を基に、市町村

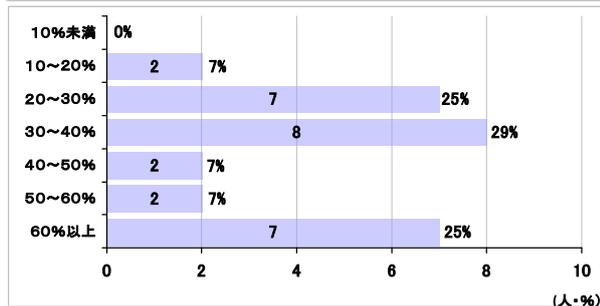
(注1) 農業就業人口：農業のみに従事した者又は農業と兼業の双方に従事したが、農業従事日数の方が多し者

内耕地面積に換算したもの。(詳しくは、用語解説 頁参照)

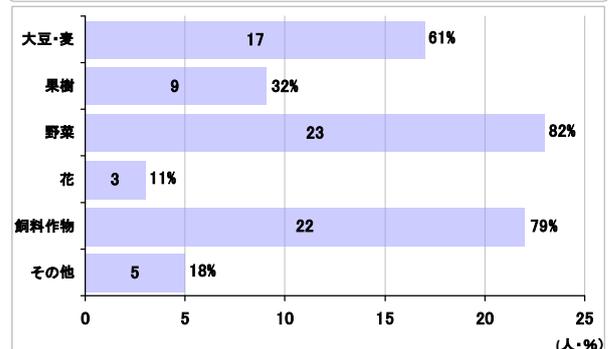
(注2) 基幹的農業従事者数：農業就業人口のうち、ふだんの主な状態が「仕事为主」の者

### 農業委員アンケート結果

【質問1】水田(水張り)を維持拡大するため、転作率はどの程度を理想と考えますか。1つ選んで○をつけて下さい。



【質問2】あなたの市町村で、今後、主食米(加工用米・備蓄米含む)以外で振興すべき作物は何だと考えますか。3つ選んで○をつけて下さい。



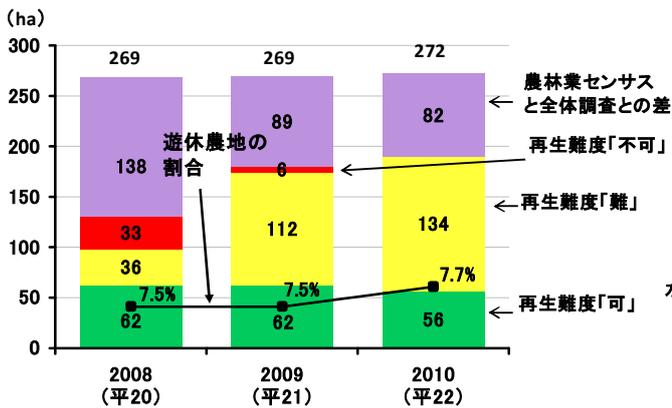
## 第2部 農地編

# 農地基盤及び利用の姿

～農地の確保「遊休農地対策」と農地利用集積の促進～

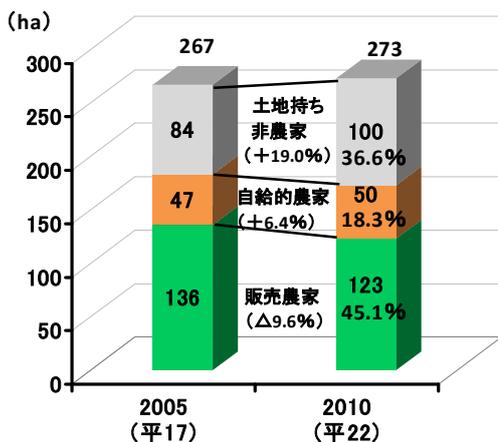
### ① 遊休農地実態と発生要因

図4 遊休農地の区分別面積と割合の推移  
～270haが遊休化し、  
再生困難な農地が拡大～



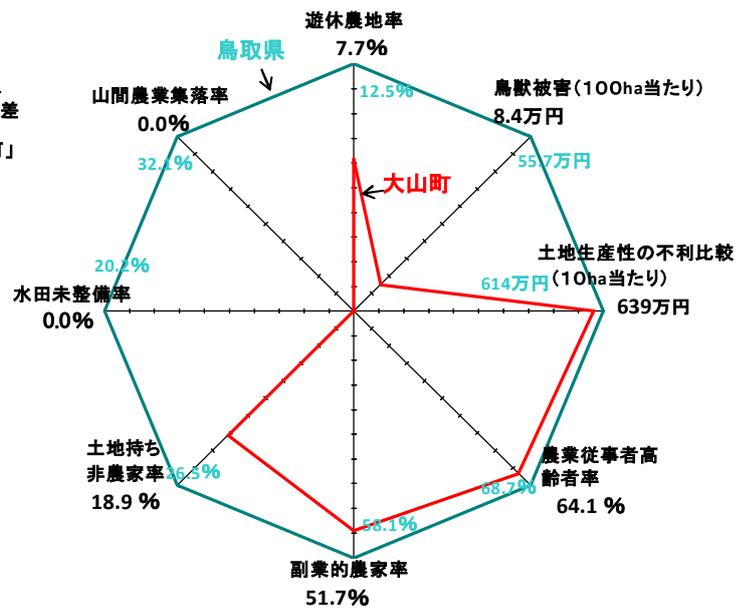
資料：合計面積は農林水産省「農林業センサス」  
区分別は農業委員会パトロール結果による  
(注) 遊休農地の割合は、  
 $\text{耕作放棄面積} \div (\text{経営耕地面積} + \text{耕作放棄面積}) \times 100$

図5 農家類型別遊休農地面積の推移  
～非農家所有の遊休農地が拡大～



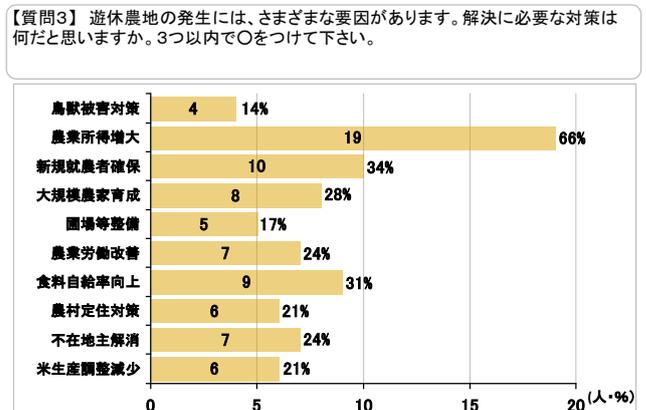
資料：農林水産省「農林業センサス」  
(注) センサスの耕作放棄地を遊休農地と表現

図6 遊休農地の要因分析  
～高齢化や兼業化などが  
遊休化の原因か～



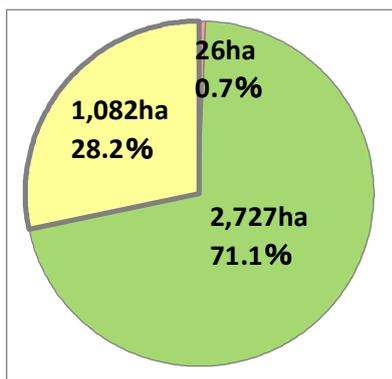
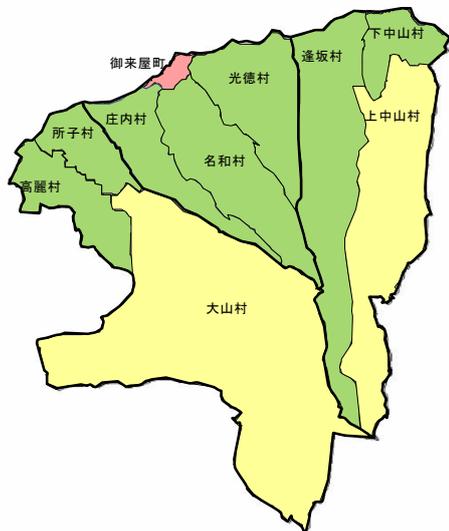
資料：各数値は各種データに基づき算定（用語解説参照のこと）

### 農業委員アンケート結果



## ② 農地の立地条件

図7 農業地域類型別の面積割合  
～7割が平地農業地域に分類～



資料：農林水産省「2010年世界農林業センサス農山村地域調査（農業集落）」

(注) 農業地域類型基準指標

- 都市的地域＝人口密度500人以上及び宅地等／可住地面＝60%以上
- 平地農業地域＝耕地率20%以上かつ林野率50%未満
- 中間農業地域＝耕地率20%未満
- 山間農業地域＝耕地率10%未満かつ林野率80%以上

農業委員アンケート結果

【質問4】 下限面積は、自然的・経済的自然条件からみて営農条件が同一と認められる地域で農家の経営規模及び農業振興計画等を考慮して定められていますが、下限面積の設定が必要ですかその必要性についてお聞かせ下さい。1つ選んで○をつけて下さい。

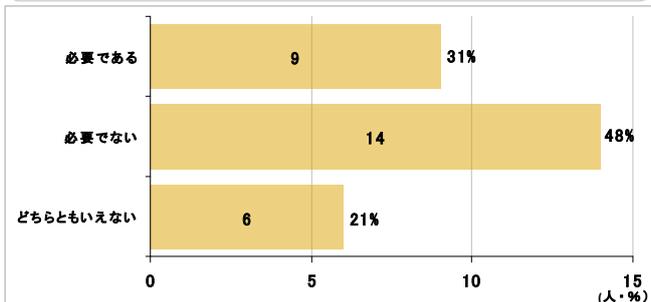
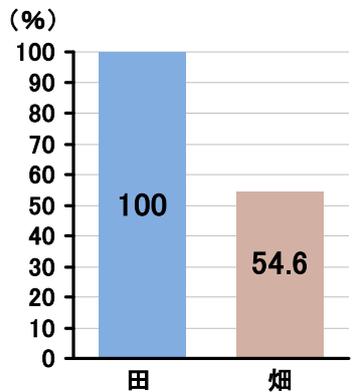
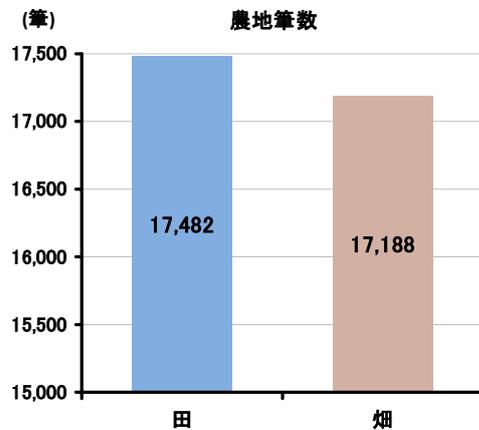


図8 農地整備の状況  
～水田整備は完了、  
畑も5割が整備済み～

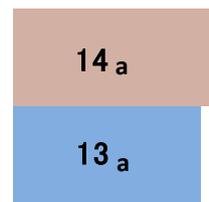


資料：県農地・水保全課調べ

図9 農地筆数及び1筆平均面積  
～農地の筆数は人口の2倍～

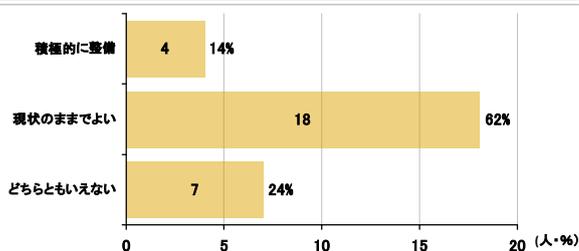


1筆平均面積

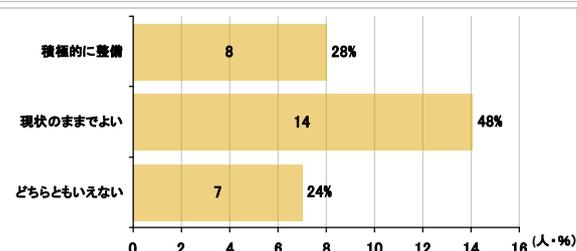


資料：農業委員会調べ

【質問5】 農地の区画整備は、今後いかにあるべきと考えますか。1つ選んで○をつけて下さい。(水田について)



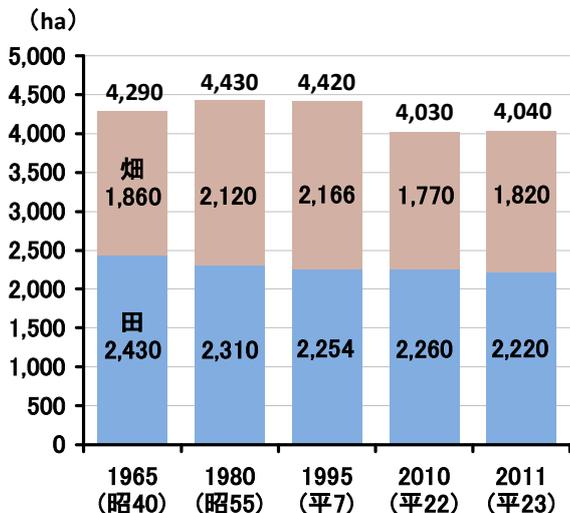
(畑について)



### ③ 農地面積の推移と利用整備計画等の状況

図10 農地面積の推移

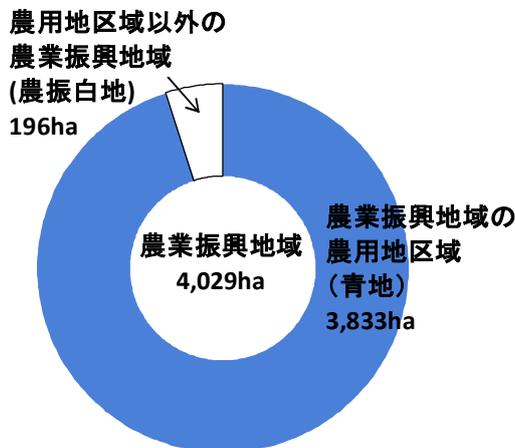
～半世紀で5%、250haの農地が減少～



資料：農林水産省「耕地面積調査」

図11 農業振興地域内農用地区域の設定状況

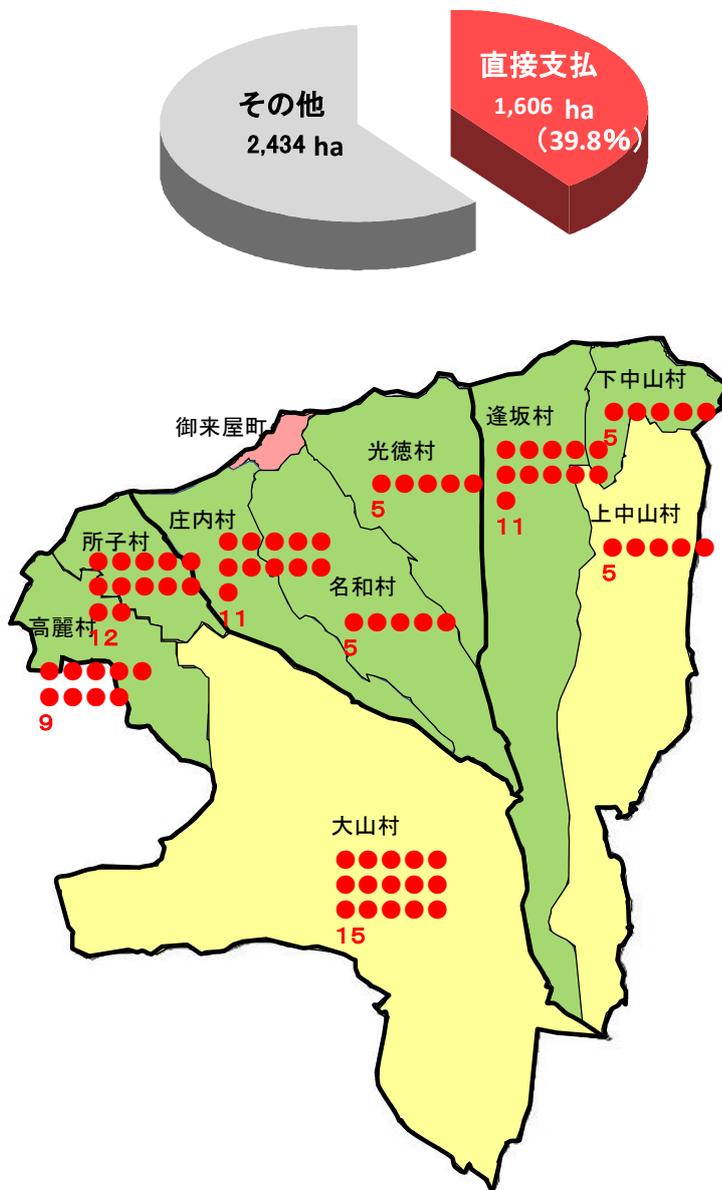
～農振地域の95%が農用地区域～



資料：県経営支援課調べ

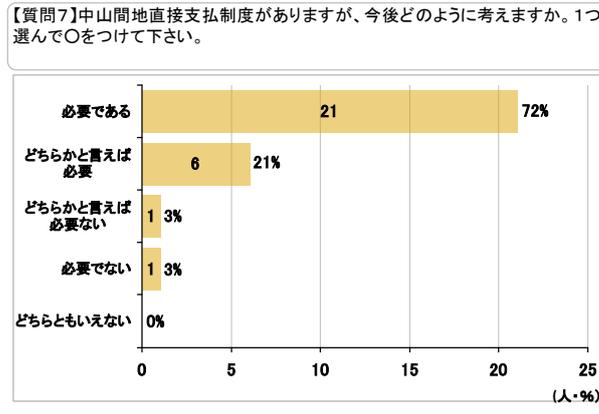
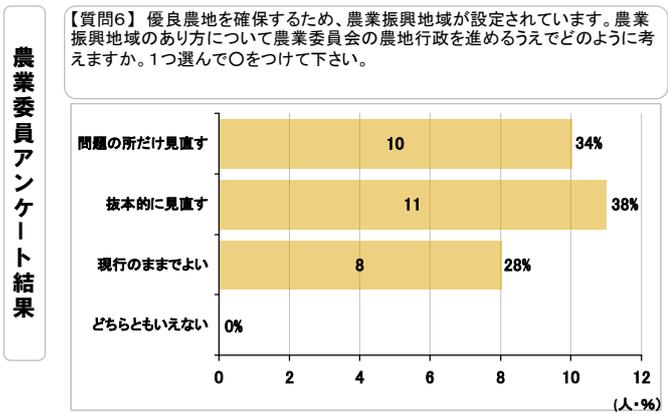
図12 中山間直接支払い対象面積と協定数

～水田を中心に、農地の4割が対象農地～



協定数 合計 78

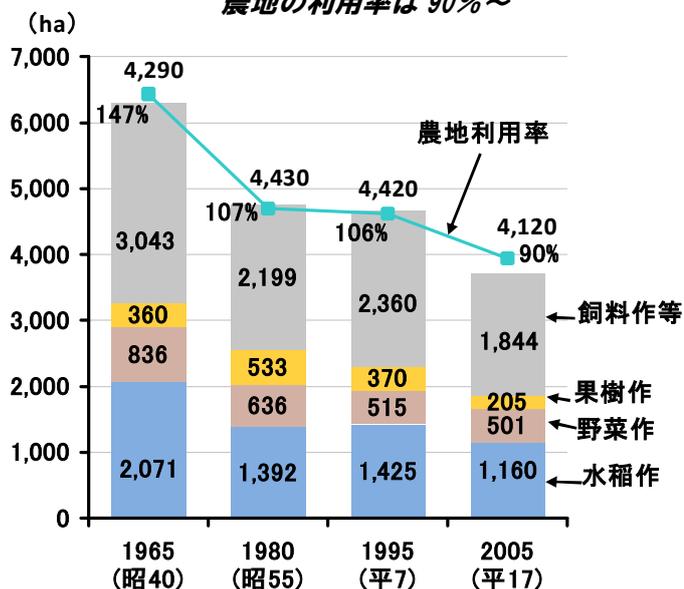
資料：県農地・水保全課調べ



## ④ 農地の利用状況

図13 営農類型別農地利用面積と農地利用率の推移

～裏作利用が激減、  
農地の利用率は90%～



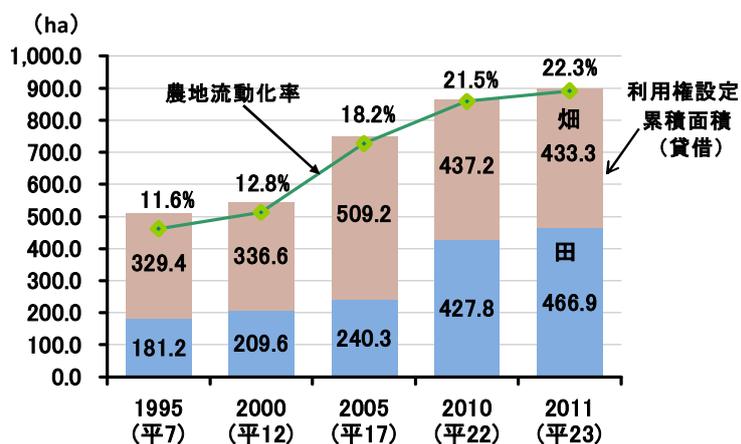
資料：農林水産省「耕地及び作付け面積統計」

(注) 利用率は、作付(栽培)延べ面積÷耕地面積×100

## ⑤ 農地の貸借状況

図14 農地貸借の推移(累積)

～2割の農地が流動化、  
貸借農地は15年で2倍に拡大～

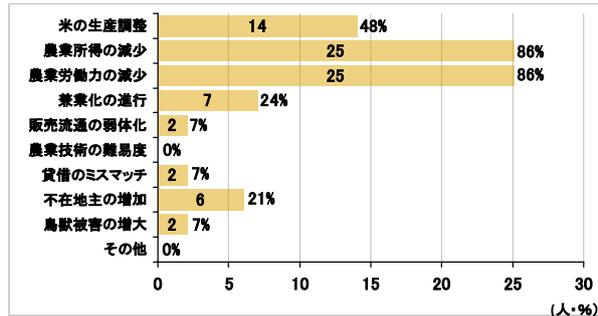


資料：農林水産省「農地面積調査」

「利用権設定面積」は農業会議調べ

### 農業委員アンケート結果

【質問8】 農地利用率が下がっている主な理由は何だと思いますか。3つ選んで○をつけて下さい。



【質問9】 農地流動化が進まない理由は何だと思いますか。3つ選んで○をつけて下さい。

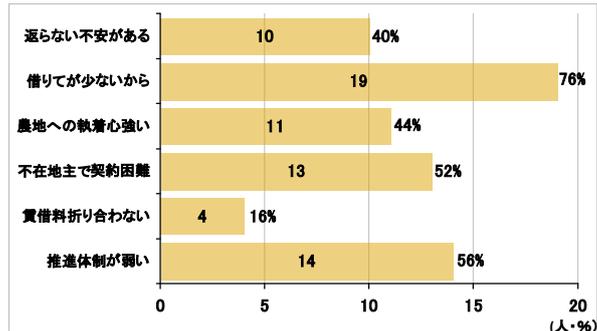
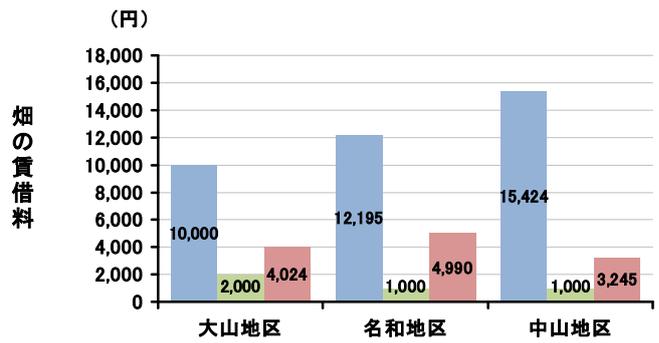
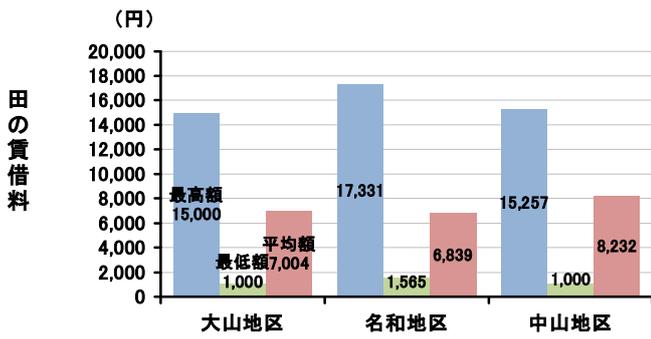


図15 農地賃借料の状況

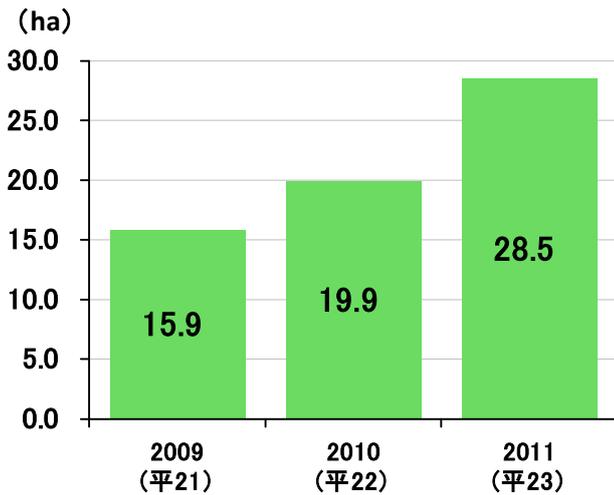
～賃借料は田畑とも低位で安定、一方で無償貸借も拡大～



資料：農業委員会調べ

図16 耕作放棄地再生事業の実施状況

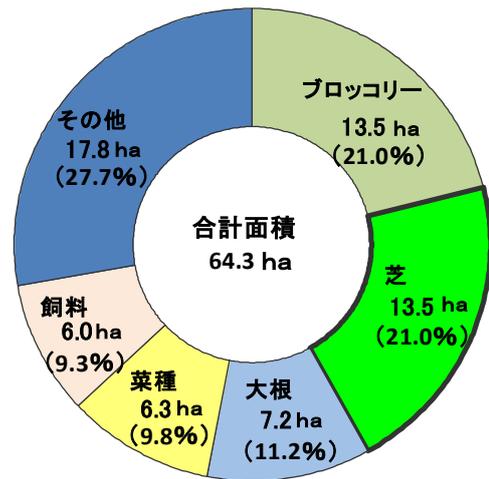
～3年間で64haの農地を再生～



資料：県経営支援課調べ

図17 再生事業実施後の利用状況 (H21～H23)

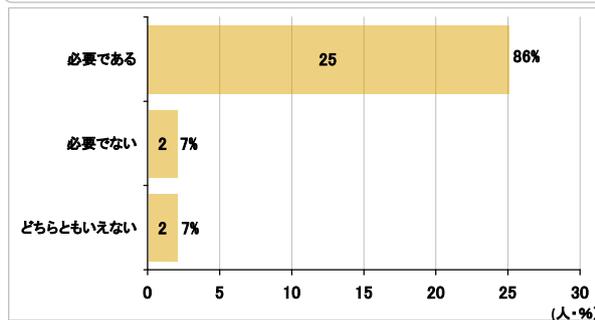
～再生農地の4割でブロッコリーと芝を生産～



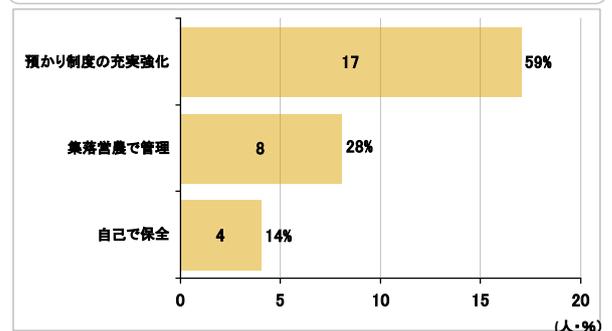
資料：農林水産課調べ

農業委員アンケート結果

【質問10】 標準小作料が廃止になって現行の農地賃借料情報となりました。賃借料情報の提供は必要ですか。1つ選んで○をつけて下さい。



【質問11】 貸し手・借り手のミスマッチなどにより遊休化寸前の農地が相当潜在していると見られています。農地保全対策はどうあるべきでしょうか。1つ選んで○をつけて下さい。



## ⑥ 農地転用の状況

図18-1 農地転用面積の推移

【平7～22】

～転用面積は大幅に縮小～

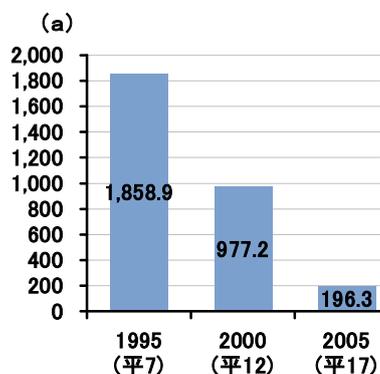


図18-2 農地転用面積の内訳

【平22：23】

～転用目的は、  
商業・業務用が中心～

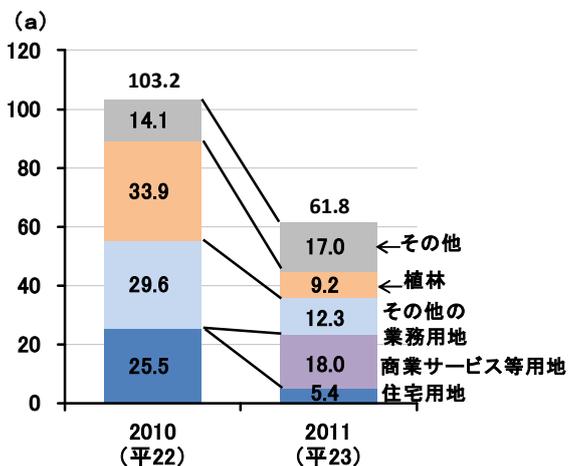
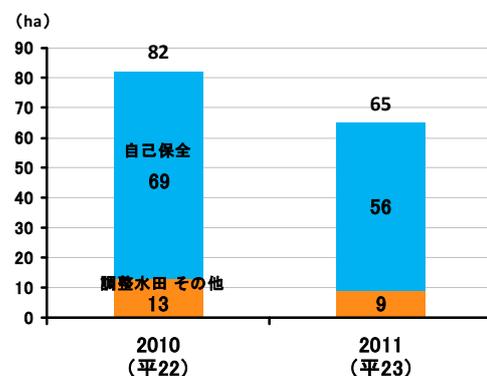


図19 水張り水田(保全)の状況

～65haの水田が不作付～



資料：農林水産省

1995「土地管理情報収集分析調査」

2010「農地権利移動等調査」

資料：農業会議調べ(農業会議答申のみ)

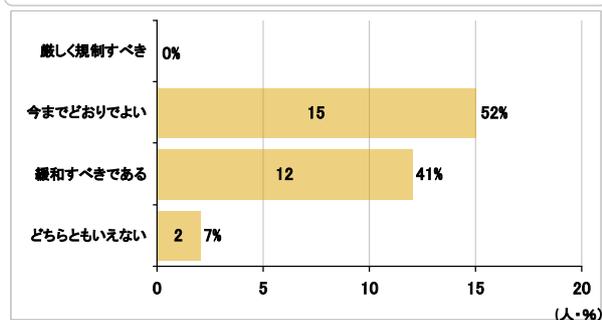
(注) 許可不要事案「公共的施設用地」は

データ公開が間に合わないため入っていない。

資料：県生産振興課調べ

農業委員アンケート結果

【質問12】農地転用の実態についてどう思いますか。1つ選んで○をつけて下さい。



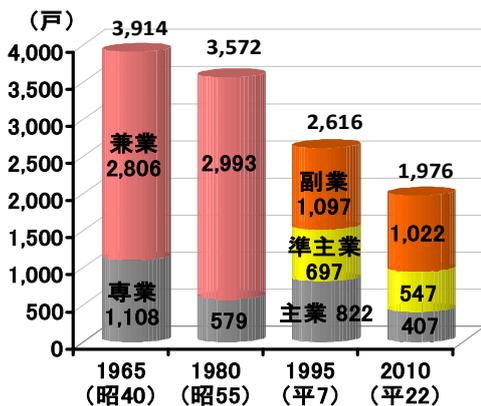
# 第3部 労働編

## 農業就労(人)の姿 ～農業者の高齢化・世代交代を踏まえた労働力総量の確保～

### ① 農業就業者の状況

図20 類型別農家の推移

～半世紀で農家数は半減、  
専業農家は2割に減少～

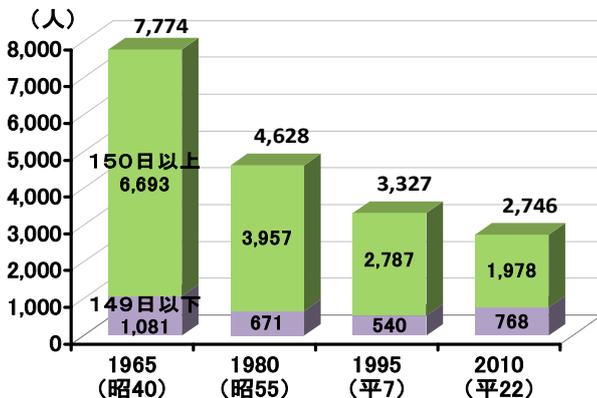


資料：農林水産省「農林業センサス」

(注) 昭55以前は旧定義の農家、  
平2以降は新定義の農家

図21 基幹的農業従事者数の推移  
(年間150日以上の従事者)

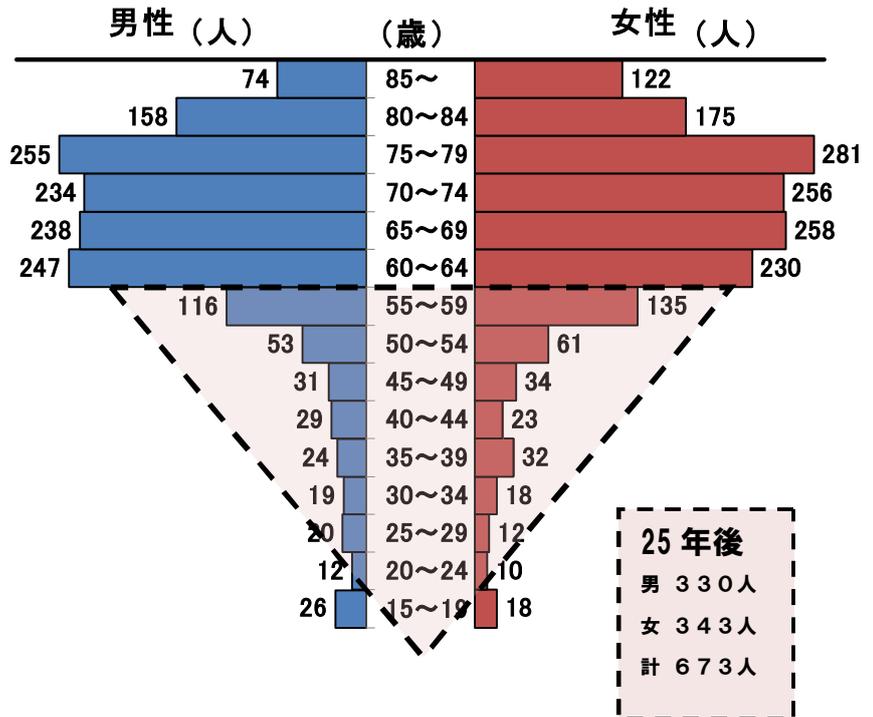
～農業を主とする従事者は、  
半世紀で3割に減少～



資料：農林水産省「農林業センサス」

図22 農業者の男女別年齢別構成割合

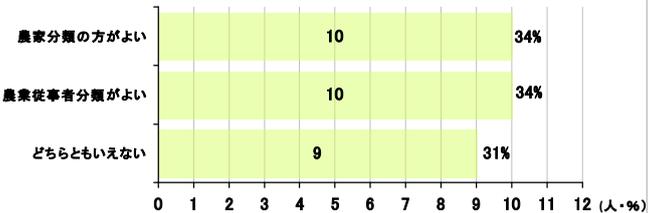
～8割が60歳以上、  
農業者の高齢化が急速に進行～



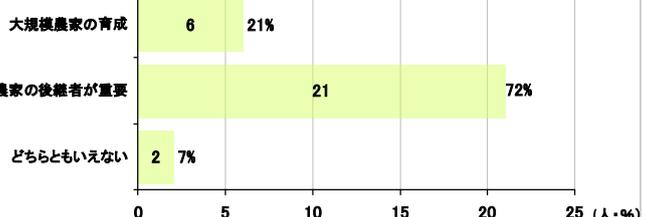
資料：農林水産省「2010年世界農林業センサス」

### 農業委員アンケート結果

【質問13】農林業センサスでは、家族経営の家を単位とする農家分類(主業・準主業・副業別)と農業従事者数(基幹的従事者150日以上)の人を単位とした従事分類がされていますが、農業問題を考える場合、どちらを重点に考えるのがよいと思いますか。1つ選んで○をつけて下さい。



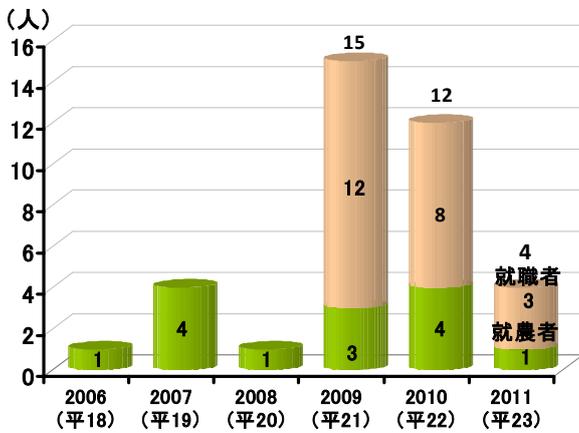
【質問14】いま、大きな世代交代期を迎えています。継続的に農業が経営できるような担い手対策はどう考えますか。1つ選んで○をつけて下さい。



## ② 就農の状況

図23 新規就農者の推移

～6年間で37人が新規に就農(就職)～



資料：県経営支援課調べ

図25 農業法人等の推移

～農業法人は暫増傾向、ほぼ全町に分布～

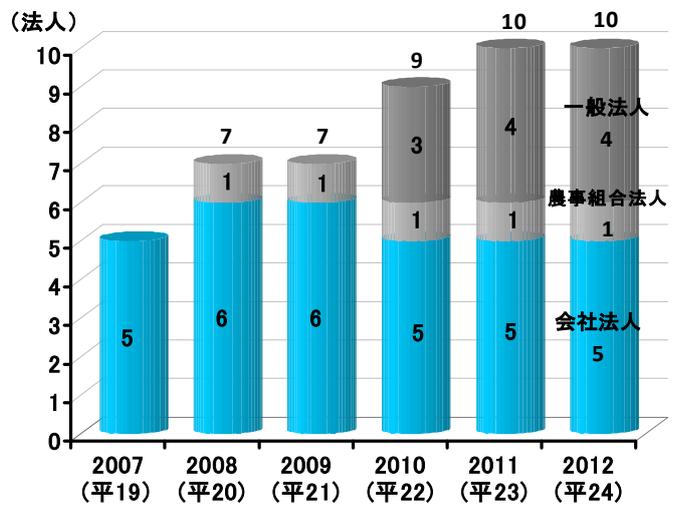
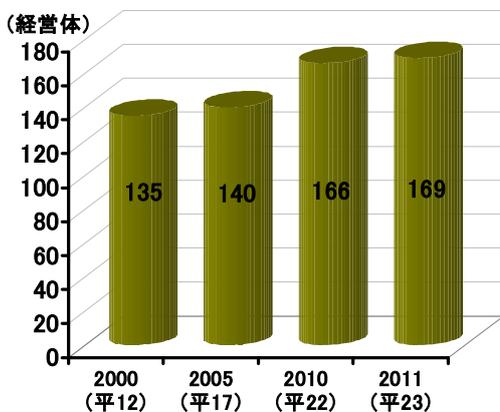


図24 認定農業者の推移

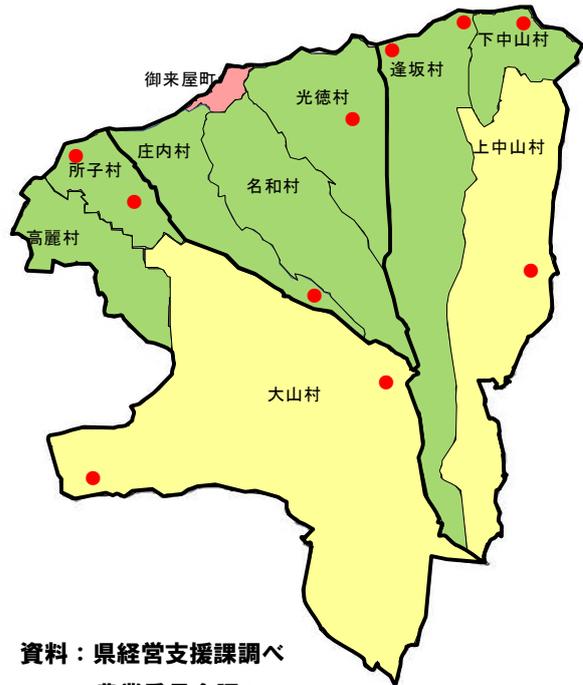
～地域農業の担い手、

認定農業者は10年間で3割増加～



資料：県経営支援課調べ

農業委員会調べ

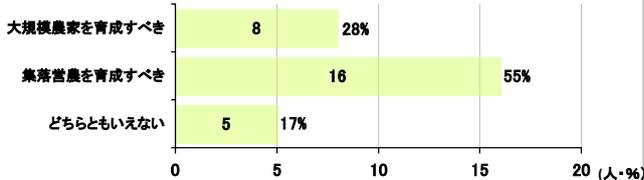


資料：県経営支援課調べ

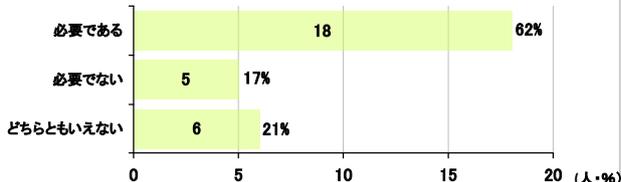
農業委員会調べ

農業委員アンケート結果

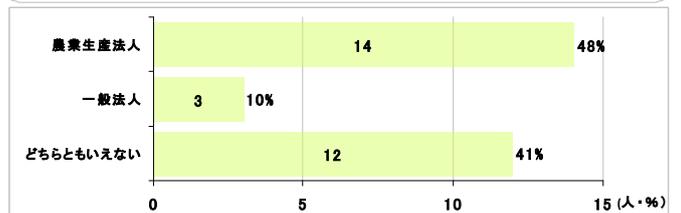
【質問15】新規就農の状況をどう考えますか。1つ選んで○をつけて下さい。



【質問16】認定農業者制度についてどう考えますか。1つ選んで○をつけて下さい。



【質問17】農業法人等について平成21年12月の農地法等改正以降、農業生産法人だけでなく一般法人等の農業参入が可能となりました。地域の農地を守るためどちらが今後より重要と考えますか。1つ選んで○をつけて下さい。



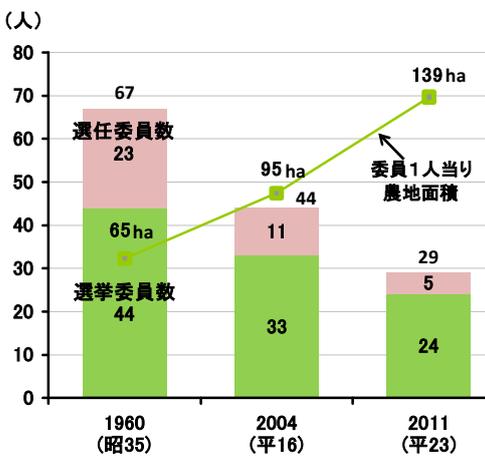
第4部  
組織編

関係機関・団体の役割分担  
～広域化のなかでの関係機関・団体の連携強化～

① 農業委員会の状況

図26 農業委員数の推移

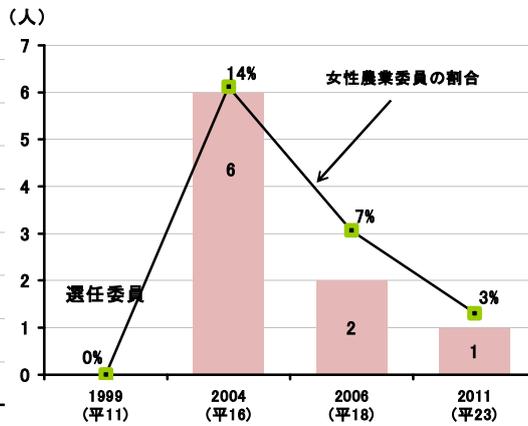
～合併により半数以下に削減、  
担当区域は1.5倍に～



資料：農林水産省「耕地面積調査」  
農業会議調べ

図27 女性農業委員数と割合の推移

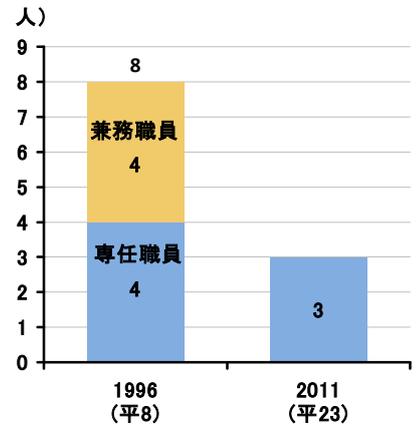
～女性農業委員が、  
合併後に急激に減少～



資料：農業会議調べ

図28 事務局職員数の推移

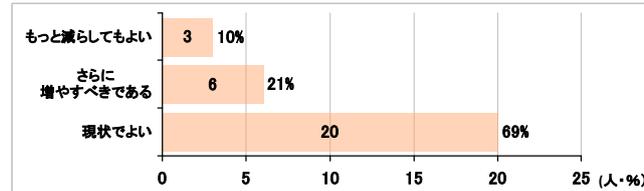
～合併により半数以下に～



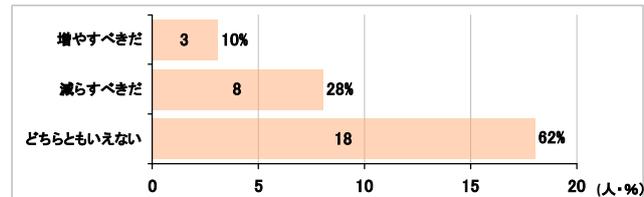
資料：農業会議調べ

農業委員アンケート結果

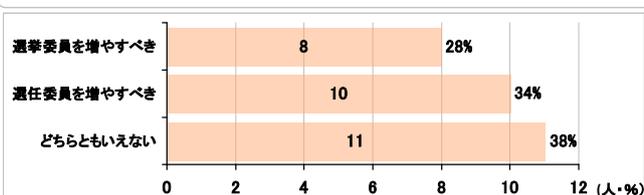
【質問18】市町村合併に伴い農業委員は減少しています。この状況をどう考えますか。1つ選んで○をつけて下さい。(選挙委員について)



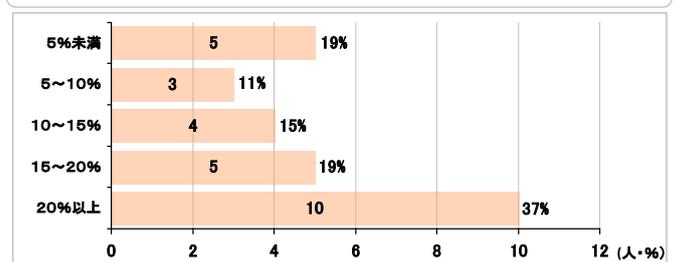
(選任委員の増減について)



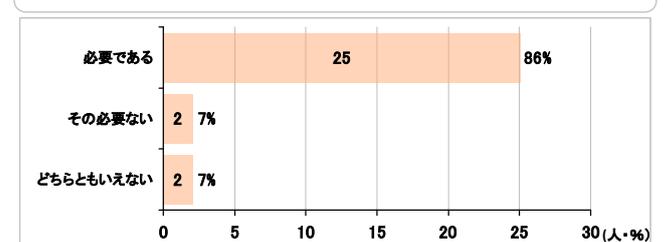
【質問19】女性農業委員の割合が問われています。どのように考えますか。1つ選んで○をつけて下さい。



【質問20】あなたの市町村では女性委員の割合を、当面どれくらいを目指すべきと考えますか。1つ選んで○をつけて下さい。



【質問21】事務局は事務増加への対応と法律・規則に関する専門知識が求められています。かつての農地主事のように専門的な職員を配置することについてどう考えますか。1つ選んで○をつけて下さい。



## ② 関係機関等との連携

図29 平成24年度農地パトロールの  
農業委員等実施人数

～全農業委員が協働して実施～



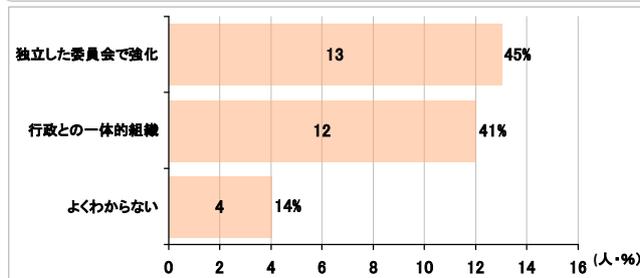
資料：農業委員会調べ

～管内における主な関係機関・団体～

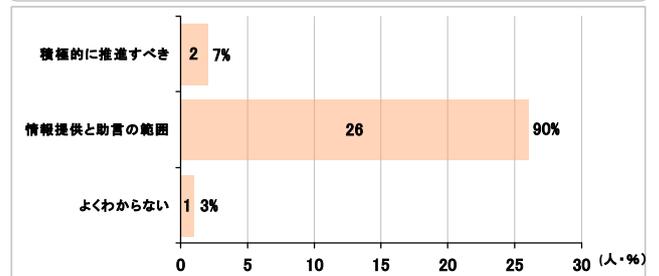
- ・ 農業協同組合
- ・ 農業共済組合
- ・ 土地改良区
- ・ 農地利用集積円滑化団体
- ・ 町農林部局
- ・ 県農林部局
- ・ 法務局

農業委員アンケート結果

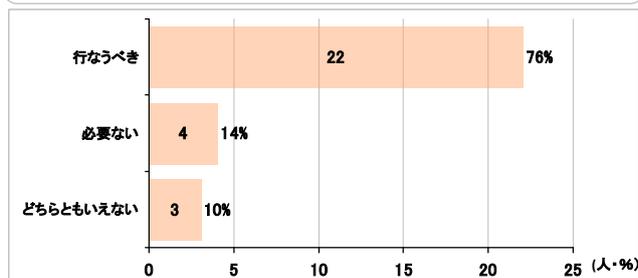
【質問22】いま農業委員会等組織のあり方が問われています。どうあるべきと考えますか。1つ選んで○をつけて下さい。



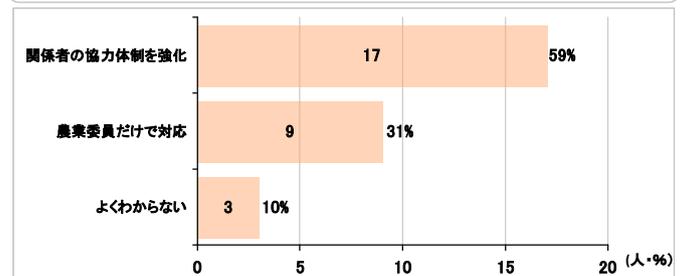
【質問24】「人・農地プラン」作成への積極的な推進と情報提供等の支援・協力が農業委員会に求められています。どこまでの取り組みが可能と考えますか。1つ選んで○をつけて下さい。



【質問23】農業委員会が毎年、戸別に行なう農業委員会委員選挙人名簿の登載申請書の提出の機会を活用し、農地の規模拡大・縮小などの「農家経営意向調査（農地貸借等調査）」を行うことについてどう思いますか。1つ選んで○をつけて下さい。



【質問25】農地パトロール実施（強化月間活動、日常監視活動）について、農業委員以外の協力を求める推進体制について、関係者の協力体制を整備すべきと考えますか。1つ選んで○をつけて下さい。



## 1 大山町農業委員会の主な建議事項

ため池の管理について建議を行いました。

町内のため池（73箇所）管理団体（代表者）の現状について調査を行い、維持管理の為の使役負担・水利費負担の違い、農地・水環境保全向上対策事業等の取組状況の違い、関係者の高齢化などから、受益者が減少している状況や、維持管理負担の増加などから、新たな耕作放棄地につながっている深刻な状況などを訴え、5年後10年後を見据えた農業施策の推進を町長へ求めました。

## 2 プロジェクト活動等の概要

農地パトロール実施要領を定めて、遊休農地の実態把握と発生防止・解消、農地の違反転用発生防止対策等について重点的に取り組んでいます。また、広報活動として「農業委員会だより」を年1回発行し、地域の農業者の活発な活動等を紹介しています。研修活動としては、他農業団体等からの視察の受け入れや先進地への視察研修を行っています。

### 3 農政活動トピックス

#### ★「食料・農業・農村の基本政策確立に向けた予算確保と具体的施策に関する提案」

(平成24年12月6日開催の平成24年度全国農業委員会会長代表者集会提案決議)

#### 1 農地の有効利用対策の強化

- (1) 農地情報の整備・管理対策の強化
- (2) 農地の利用集積を加速するための環境整備
  - ① 「人・農地プラン」における認定農業者の位置づけ
  - ② 農業委員会による農地の利用集積と遊休農地に関する取り組みの体系化
  - ③ 農地利用集積円滑化団体による農地の保全
  - ④ 農地集積対策への支援強化
  - ⑤ 都道府県域における農地の面的集積促進の支援
- (3) 遊休農地の発生防止・解消対策の強化
  - ① 遊休農地の再生利用に向けた支援
  - ② 「農地トラスト制度(仮称)」の創設
  - ③ 「予備農地(仮称)」の考え方の導入と管理等への政策的な支援
  - ④ 非農地とした土地の管理・保全に向けた措置
- (4) 都市農地の活用の推進

#### 2 担い手・経営対策の強化

- (2) 農業者戸別所得補償制度の機能強化等
- (3) 土地利用型農業経営の体質強化
- (4) 農業者年金制度の積極的な推進

#### 3 新規就農・人材育成対策の強化

- (1) 新規就農者の確保対策の強化
- (2) 農業の雇用改善

#### 4 地域振興対策の強化

- (1) 都市計画制度等の見直しにおける都市農地の保全
- (2) 中山間地域対策など地域を支え守る施策の強化
- (3) 鳥獣被害対策の強化
- (4) 基盤整備の促進
- (5) 地域の農業者が主体となった6次産業化の推進
- (6) 再生可能エネルギーの利用推進

#### 5 大震災・原発事故への万全な対応

- (1) 震災復旧・復興対策の迅速化と十分な対応
- (2) 東京電力福島第一原子力発電所事故への万全な対応

#### 6 消費税・相続税への慎重な対応

#### 7 農業委員会組織体制と機能の強化

# 用語解説

図 2

「農業就業人口」

農業のみに従事した世帯員及び農業と兼業の双方に従事したが、農業従事日数の方が多い世帯員

「基幹的農業従事者数」

農業就業人口のうち、ふだんの主な状態が「仕事が主」の者

図 3

「農業の多面的機能」

農産物以外に、生産活動によって社会に役立つ有形・無形の価値が生み出されるもの。

環境保全機能や安らぎ機能、社会文化的機能、経済維持機能など。

「洪水防止機能評価額」 =  $\frac{\text{全国洪水防止機能評価額}}{\text{全国田畑面積}} \times \text{市町村田畑面積}$  \* (73万円/ha)

「水土里安定機能評価額」 =  $\frac{\text{①}}{\text{全国水稲面積}} \times \text{市町村水稲面積}$  \* (90.3万円/ha)

※① = (河川流況安定機能 + 地下水かん養 + 土砂崩壊防止 + 気候緩和 + 土壌浸食防止)

「農業の多面的機能の評価方法（全国）」

機能		評価方法
洪水防止		田畑の貯水能力を評価
水土里安定	河川流況安定	水田灌漑用水の還元能力
	地下水かん養	水田地下水かん養量を評価
	土砂崩壊防止	土砂崩壊の水田抑止力
	気候緩和	水田気温低下効果(-1, 3℃)
	土壌浸食防止	農地耕作の土壌浸食防止
保健	有機廃棄処理	下水汚泥等の農地還元分
	保健・休養	農村地域への旅行支出額

図 4

「耕作放棄地」

この数年の間に再び耕作する考えのない農地(農林業センサス用語)

「遊休農地」

耕作の目的に供されておらず、かつ、引き続き耕作の目的に供されないと見込まれる農地(農地法)

図 6

- ① **遊休農地の割合** =  $\frac{\text{耕作放棄地面積}}{\text{経営耕地面積} + \text{耕作放棄地面積}}$   
\* 農林水産省「2010 世界農林業センサス」
- ② **鳥獣被害額** (100ha 当たり) =  $\frac{\text{鳥獣被害額}}{\text{耕地面積}}$   
\* 鳥取県農林水産部調べ「鳥獣被害状況」
- ③ **土地生産性** (10ha 当たり) =  $\frac{\text{農業所得}}{\text{耕地面積}}$   
\* 農林水産省「生産農業所得統計」
- ④ **農業従事者高齢者率** =  $\frac{\text{65 歳以上}}{\text{農業就業人口}}$   
\* 農林水産省「2010 世界農林業センサス」
- ⑤ **副業的農家率** =  $\frac{\text{副業的農家数}}{\text{販売農家数}}$   
\* 農林水産省「2010 世界農林業センサス」
- ⑥ **土地持ち非農家率** =  $\frac{\text{土地持ち非農家数}}{\text{総農家数} + \text{土地持ち非農家数}}$   
\* 農林水産省「2010 世界農林業センサス」
- ⑦ **水田未整備率** =  $\frac{\text{30 a 以上区画未整備水田面積}}{\text{水田面積}}$   
\* 農林水産省「農業基盤情報基礎調査報告書」
- ⑧ **山間農業集落** =  $\frac{\text{山間農業地域集落数}}{\text{集落数}}$   
\* 農林水産省「2005 農林業センサス」

図 7

「農業地域類型」

短期の社会経済変動に対して、比較的安定している土地利用指標を中心とした基準指標によって市町村及び市区町村(昭和25年2月時点の市町村)を類型化したもの

## 図 1 1

### 「農業振興地域」

農振法に基づく市町村の農業振興整備計画でマスタープランに定められた優良農地を確保するための地域。

## 図 1 4

### 「利用権設定」

農用地等の賃借や売買を円滑に進め、経営規模を拡大したい農家や農業生産法人に対し、効率的な生産ができるように促進するため（農業経営基盤強化促進法）、農地の賃借及び所有権移転（利用権の設定・移転）による権利移動のこと。

## 図 2 0

### 「販売農家、自給的農家」

販売農家は、経営耕地面積が 10 a 以上又は農産物販売金額が年間 50 万円以上の農家

自給的農家は経営耕地面積が 30a 未満かつ農産物販売金額が 50 万円未満の農家

### 「主業、準主業、副業的農家」

・主業農家 農業所得が主（総所得の 50%以上）・年間 60 日以上農業従事（65 歳未満）

・準主業農家 農外所得が主・従事者は（主業農家と同じ）

・副業的農家 主業、準主業農家以外の農家

### 「専業農家、兼業農家」

・専業農家 世帯員のなかに兼業従事者が 1 人もいない農家

・兼業農家 【1 種】兼業従事者が 1 人以上おり、かつ農業所得の方が多い農家

【2 種】兼業従事者は（同上）、かつ兼業所得の方が多い農家

## 図 2 4

### 「認定農業者」

農業経営の目標等の計画（経営改善計画）を作成し市町村長の認定を受けたもの

## 図 2 5

### 「農業生産法人」

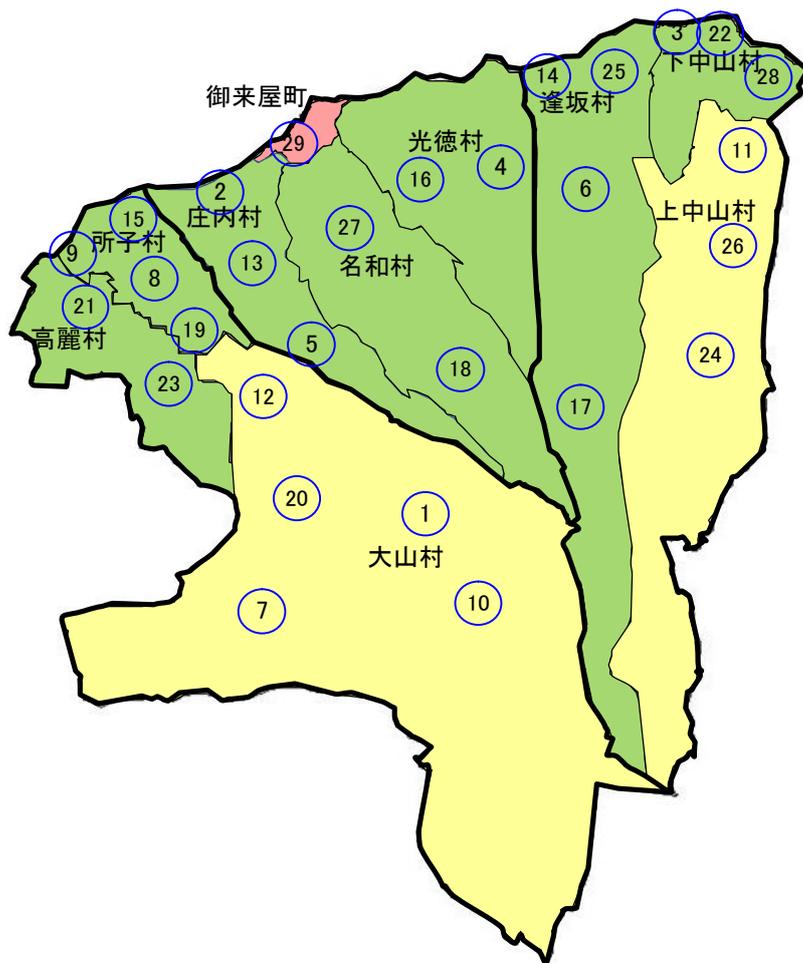
農地法で規定する農地を利用して農業経営を行なう法人。農事組合法人、持分会社（合名、合資、合同会社）、株式会社（株式譲渡制限会社に限る）の 5 形態。事業や構成員、役員についても一定の要件が農地法で定められている。

## 図 2 6

### 「農業委員定数」

市町村の裁量の拡大と業務運営等の効率化等を促進するため、必置基準面積の見直し、選挙委員の下限定数を条例に委任する措置が講じられている。

# 農業委員名簿



選挙・選任別	氏名	備考 (担当地区)	選挙・選任別	氏名	備考 (担当地区)
1 選挙	西村 正道	今在家等	16 選挙	枝谷 凱之	小竹等
2 選挙	遠藤 光則	富長東等	17 選挙	岸本 耕二	報国等
3 選任	西尾 寿博	潮音寺等	18 選挙	原 祥二郎	旧奈和等
4 選挙	中村 公	上前谷等	19 選挙	金田 一男	神原等
5 選挙	前田 繁昌	東高田等	20 選挙	松原 慎一	佐摩等
6 選挙	福留 邦彦	退休寺等	21 選挙	福見 俊二	平田等
7 選挙	川上 英章	大山等	22 選挙	田中 祥二	下甲等
8 選挙	車 和則	所子等	23 選挙	上田 陽介	稲光等
9 選挙	森田 信也	福尾等	24 選挙	森田 利正	羽田井
10 選任	田尾 昭典	蔵岡等	25 選挙	小倉 清	住吉等
11 選挙	奥田 貢	八重等	26 選任	秋田 実	束積
12 選任	建部 愿	宮内等	27 選挙	米澤 誠一	坪田1区等
13 選挙	高虫 秀樹	古御堂等	28 選挙	中川 幸應	田中等
14 選挙	橋井 隆司	下市等	29 選挙	舩田 愛治	御来屋東区等
15 選任	山根 令子	上野等			

## 大山町の風土 ～農地・農業ポテンシャルの開花(潜在力・可能性)～

### 町章



大山町のDを図案化したもので、緑は大山の恵みを、青はきれいな水、水色は澄んだ空気を表したもので、これらの豊かな環境資源の中で、元気に躍動する町の姿が描かれています。

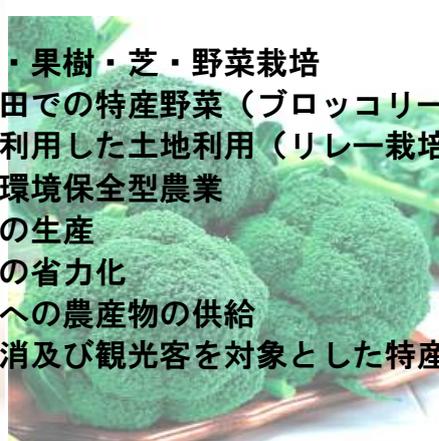
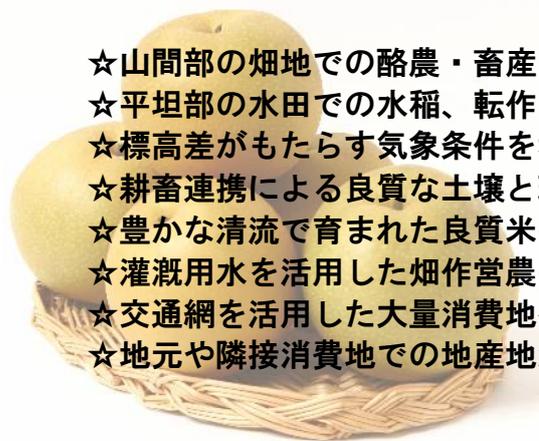
秀峰「大山」をその名に頂くわがまち大山町は、大山のもたらすさまざまな恵みにより、農業においても多様な潜在力と限りない可能性を秘めています。

## 大山がもたらす農への恵み

地形	中国地方最高峰の大山山頂 1,709m から海拔 0m の日本海までを擁する肥沃な大地
水系	阿弥陀川、甲川など大山を源とする豊富な清流と国営・県営事業による畑地灌漑用水
土壌	大山の裾野一帯に広がる大山ローム層（肥沃な黒ぼく土壌）
気候	梅雨と冬に多い降水量とさつき晴れ・秋晴れの日照量、標高差がもたらす寒暖差や日本海からの冷風による昼夜差
地理	商都米子市に隣接し、米子自動車道・山陰自動車道などの陸上交通網や米子空港、境港など空・海航路にも1時間圏内
交流	大山を中心に全国から年間100万人を超える観光客が訪れる豊富な交流人口

## 大山の恵みを活かした特色ある農業の展開

- ☆山間部の畑地での酪農・畜産・果樹・芝・野菜栽培
- ☆平坦部の水田での水稻、転作田での特産野菜（ブロッコリー・白ねぎなど）の栽培
- ☆標高差がもたらす気象条件を利用した土地利用（リレー栽培など）
- ☆耕畜連携による良質な土壌と環境保全型農業
- ☆豊かな清流で育まれた良質米の生産
- ☆灌漑用水を活用した畑作営農の省力化
- ☆交通網を活用した大量消費地への農産物の供給
- ☆地元や隣接消費地での地産地消及び観光客を対象とした特産品の直売



### 【大山町農業委員会】

住所 〒689-3111

鳥取県西伯郡大山町赤坂 66 番地（大山町役場中山支所内）

電話 0858-58-6115

FAX 0858-58-4024

E-mail nougyou@daisen.jp